

「対象：父と母」

—2稿—

2026/9/29

米俵

〈人物表〉

石田 武志^{たけし}
(30)
元・自衛官

石田 正文^{まさみ}
(66)
武志の父親

石田 和子^{かずこ}
(54)
武志の母親

1. 石田家・外観（昼）

山間部。自然の中にポツンと立つ一軒家。
静寂。

2. 石田家・玄関・外（昼）

玄関脇の窓越しに、棚に飾られた古い写真が見える。
若い男女。南国らしい海が背景。二人の首にはレイ。

ドアがゆっくりと開く。

石田正文（66）、そーっと顔を出す。

辺りを確認。

恐る恐る一歩踏み出す。

安心した様子で二歩目を踏み出す。

その瞬間、足元でパンという音。

地面に穴があいている。

ライフルのスコープ。その奥に、男の目。

正文、少し離れた林の方を見る。

林の中、一点がキラッと光る。

正文、ため息。

腰につけていた小型無線機をとって、

正文 「……武志」

武志の声「父さん、どこ行くの」

正文 「買い物に」

武志の声「昨日、買ってきてあげたよね」

正文 「……散歩でもと思って」

武志の声「きょうも70代が事故にあってる」

正文 「俺はまだ60代だよ」

武志の声「ほぼ変わらない」

正文 「あと4年あるわ」

と、車へ走り出す。

パン、と音がする。

車のタイヤに穴が開き、空気が抜ける。

正文 「お前、何してんだ！」

武志の声「外はもっと危ない」

正文、車のタイヤを確認して肩を落とす。

武志の声「早く家に入って」
正文「どうかしてるぞ」

と、しづしが家に入る。

3.

石田家・リビング（夜）

射撃の賞のトロフィーや盾がいくつも飾ってある。

どれも「石田武志」と刻まれている。

壁には、自衛官時代の武志の写真。

食卓の一方に、石田武志（30）。迷彩服姿。

その向かいに正文と石田和子（54）が座っている。

正文と和子、頭を下げて、

正文「頼む。結婚30周年なんだ」

和子「佐原なら、ここから1時間ぐらいでしょ？」

武志「……ダメだ」

正文「何が？」

武志、「事故履歴」と書かれたノートを取り出す。

武志「父さん。一昨年、車でガードレールに接触」

正文「かすっただけだ」

武志「母さん。去年、外出時に階段から転落」

和子「2段ね」

武志「二人とも。先月、近所の坂で転倒」

和子「ちよつと滑っただけでしょ」

武志、ノートの最終ページを開いて見せる。

赤ペンで「父…81歳 母…87歳」

正文「……何だこれ」

武志「平均寿命。これは最低ラインだ」

正文「おい、あと15年も家にいるのか？」

和子「パパはまだマシでしょ。私なんて33年……」

正文、和子を横目で見える。

武志「事故歴は消えない」

正文、少し考えて、和子と目を合わせる。

正文「武志……バスもダメか？」

武志「バスジャック」

和子「じゃあ、電車。電車なら大丈夫でしょ？ ね？」

武志 「脱線事故」

正文と和子、黙る。

正文 「俺たち、結婚記念日も祝えないのか？」

和子、わざとらしく悲しそうな顔。

武志 「……」

正文 「車ならいいか？」

和子 「でも、ほら……」

正文 「ああ、タイヤか」

正文と和子、そろって武志を見る。

武志 「車は用意する」

正文 「まさか、お前の運転で？」

和子、急に甘えた声で、

和子 「やだー。車ならパパと2人がいい……」

正文、和子を見て笑顔。

武志、眉間に皺をよせて、

武志 「2人で行けばいい」

和子 「本当？」

正文 「いいのか？」

武志 「俺は、後ろからついていく」

正文・和子 「……」

武志 「何かあればすぐに対応できる」

和子 「いつもそうしてくれれば、外出できるのに」

武志 「俺の神経がもたない。今回だけだ」

と、部屋を出ていく。

正文と和子、顔を見合わせる。

4. 正文と和子の車・車内（朝）

正文が運転。車はすでに高速を走っている。

後方には武志が乗る車。

小型無線機から、

武志の声 「まもなく合流地点。気を付けて」

正文 「分かってる」

武志の声 「左、バイク」

和子 「武志、少しだけ2人にして……」

と、和子が小型無線機の電源を切ろうとする。

武志の声「無駄だ。特殊加工してある」

和子、無線機を睨む。

バッグからタオルを取り出す。

無線機をぐるぐると包み、バッグの奥へ押し込む。

さらに上から荷物を詰め、ファスナーを閉める。

正文「大丈夫か？」

和子「たぶん」

和子、バックミラーを見る。

後方から一台の車が近づいてくる。

和子「……来た」

正文「上手くいくか？ 武志だぞ？」

和子「料金はやってもらわないと」

一台の車が武志の車を追い越す。

5. 武志の車・車内（朝）

特殊なボタンや画面が並ぶ車。

武志「次のSAはダメだ。その次で」

小型無線機から、くぐもった雑音。

武志、ちらりと無線機を見る。

その瞬間、一台の車が武志の前に割り込む。

割り込んだ車が突然減速する。

武志、ぶつかりそうになり、慌てて減速。

武志「父さん、少し速度落として」

武志、車線変更。

妨害車も武志の前をふさぐように車線変更する。

6. 正文と和子の車・車内（朝）

和子、後ろを振り返る。

妨害車が武志の進路をふさいでいる。

和子「パパ、今！ 行っちゃって」

と、正文を叩く。

正文、アクセルを踏む。

車が加速する。

和子、後方を確認して、
和子 「行ける、行ける！」

正文、更にアクセルを踏み込む。

7. 武志の車・車内（朝）

（画面）レーダー上、正文たちの車が遠ざかる。

武志、それを確認する。

妨害車、武志の進路をふさぐように蛇行する。

武志、眉間に皺を寄せる。

ダッシュボードの中のボタンを押す。

8. 高速道路（朝）

車体前方から特殊な粘着剤が発射される。

妨害車のタイヤに絡みつく。

妨害車、大きく蛇行。

運転手、必死にハンドルを切り、路肩へ。

側壁すれすれで停車。

9. 武志の車・車内（朝）

武志、運転手の無事を横目で確認。

アクセルを踏み込む。

小型無線機から、くぐもった声。

武志、切り替えスイッチを押す。

ノイズが消え、音声がクリアになる。

和子の声 「……パスポートは？」

正文の声 「ちゃんとある」

武志、目を見開く。

正文の声 「まだ着いてもないぞ」

浮かれた声で、

和子の声 「アロ〜ハ〜」

武志、顔をしかめる。

ナビ画面に正文たちの車の予測ルートが表示される。

（画面）予測目的地…成田空港

武志、画面を操作。

(画面)「到着予測…3分遅れ」

10. 高速道路(朝)

武志の車、急加速。先行車を次々と追い越していく。

11. 成田空港・出発ロビー(朝)

大勢の旅行客で賑わっている。

アロハシャツに着替えた正文と和子。

和子、観葉植物の鉢のかげに小型無線機を隠す。

2人、嬉しそうに歩いていく。

12. 空港入口(朝)

武志の車が急停車。

武志、ロビーへ駆け出す。

13. 成田空港・ロビー(朝)

武志、遠くに2人を発見。

武志 「父さん、母さん！」

正文と和子、振り返る。

正文 「……来た」

和子 「パパ、走って！」

2人、走っていく。

武志、それを追いかける。

和子 「パパ、あれ」

と、動く歩道を指す。

2人、その上を全力疾走。

正文が振り返る。

正文 「あいつ、速すぎる」

武志、動く歩道は使わず、それに沿って走っている。

どんどん2人との距離が縮まる。

武志 「父さん、走ると転ぶよ」

正文 「じゃあ、お前が止まれ」

和子 「パパ、いいから。前だけ見て」

武志 「山で滑落しただろ」

正文 「それは20年前だ」
和子 「あれ、乗って！」

14. 成田空港・エレベーター前（朝）

正文と和子、エレベーターへ駆け込む。
和子 「早く、早く」
と、閉ボタンを連打。
武志が走ってくる。
武志 「エレベーター落下の危険」
正文 「大丈夫だ。その確率は低い」
武志の目の前でドアが閉まる。

15. 成田空港・エレベーター内（朝）

正文と和子、顔を見合わせる。
和子 「やった！」
正文、ゼーゼーと息を切らす。
和子 「（闘争心あふれた表情で）ハワイに着いてからにして」
正文、驚いた顔。

16. 成田空港・通路（朝）

武志、エスカレーターを駆け上がっていく。
武志 「すみません、すみません」
武志の前に大きな荷物を持った団体客。
武志、上を見る。
走っていく正文と和子。
× × × ×
正文と和子の前方に保安検査場。
和子 「パパ、あそこ！」
正文 「もう無理……」
正文、ふらふらと走る。
和子、先に保安検査場へ到着。

和子 「あとちょっと！」

武志、階段を駆け上がってくる。

武志 「ハワイの危険エリアの確認は？」

正文、力をふり絞って保安検査場へ入る。

武志、追って入ろうとする。

係員 「お客様、搭乗券を」

正文と和子、大きく手を振って、

正文 「武志、俺たちは大丈夫だ」

武志、2人を見つめる。

17. ハワイ・ホテル前のビーチ（昼）

正文と和子、ビーチチェアに寝そべっている。

和子、日焼け止めを塗る。

ふと、バッグの上の小型無線機に気付く。

和子 「……パパ、これどうしたの？」

正文 「え？」

小型無線機からの声。

武志の声 「母さん、それSPF50+、PA++++だよね。」

正文と和子、周囲を見回す。

武志の声 「父さんもちやんと塗って。日焼けは蓄積する」

正文の足元に、大型のムカデが這ってくる。

パンという音。

大型のムカデが動かなくなっている。

2人、遠くを見て、

正文・和子 「来る……」

遠くで、一点がキラッと光る。

終わり